

新年のごあいさつ



登別市議会議長
高橋 正美

新年明けましておめでとうございます。
市民の皆さまには、お健やかに新年を迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。

日ごろから、議会運営に対し特段のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年3月11日に発生した東日本大震災や福島第一原発事故は、日本の社会・経済全体に甚大な影響を及ぼしただけでなく、外国人観光客の入り込み数が大きく減少するなど当市もその影響を受けております。

また、金融不安や円高の進行、景気低迷による雇用悪化など厳しい経済状況が続く中で新しい年を迎えました。

地域主権改革が進む中で、地方自治体を取り巻く環境は年々変化し、市議会の果たすべき役割や責任はますます大きくなっているものと認識しております。

昨年、登別市議会は、市民の皆さまの声を積極的に受け止め、市民生活に軸足を置いた議会づくりに取り組むため、議会運営の最高規範として『登別市議会基本条例』を制定しました。

議会運営は、公平・公正・公開を原則とし、透明で開かれたものでなければなりません。市民と協働する議会を目指し、今年も全力で取り組んでいく決意しております。

結びに、市民の皆さまにとりまして、今年もご健勝で明るく幸せな年となりますよう心からご祈念申し上げ、新年のごあいさついたします。



登別市長
小笠原春一

新年明けましておめでとうございます。

市民の皆さまにおかれましては、輝かしい希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

国内観測史上最大のマグニチュード9.0を記録した東日本大震災は、東北地方を中心に各地で多くの死者を出し、9カ月経った今でも、避難生活を余儀なくされる方がいるなど、改めて自然災害の恐ろしさと災害に対する備えを考えさせられる出来事となりました。

また、福島第一原発の事故などの影響も含め、外国人観光客の入り込み数が大きく減少するなど、当市の経済も、大きな打撃を受けました。

一方、宮城県白石市、神奈川県海老名市とともに締結した『災害時における相互応援に関する協定』は、東日本大震災で大きな被害を受けた白石市を、海老名市とともに支援するなど、その効果を発揮したほか、その後の『トライアングル交流宣言』では、海老名市から400人を超える市民交流ツアーがお越しくくださるなど、地域間の結びつきを強く感じた1年でもありました。

本年も、地域と地域、人と人の結びつきを大切にしながら、あらゆる世代の方が、安全に安心して暮らせるまち『のぼりべつ』を創り上げてまいります。

本年が皆さまにとって、幸多き年であることを祈念し、新年のごあいさつとさせていただきます。